



事業計画及び成長可能性に関する 事項

株式会社リボミック（証券コード 4591）

2021年10月1日

目 次

- CEO ご挨拶
- 会社概要
- 事業概要
- 中期展望
- リスク情報

目次

- CEO ご挨拶
- 会社概要
- 事業概要
- 中期展望
- リスク情報

CEO ご挨拶

1本鎖の核酸（RNA）には多様な立体構造を創り出す「造形力」があります。私たちは、その造形力を利用した医薬品の開発（「アプタマー創薬」）事業を進めています。

これまではDiscovery段階の自社創薬と製薬企業との共同研究が中心でしたが、2018年から自社製品であるRBM-007（抗FGF2 アプタマー）を用いた加齢黄斑変性症に対する臨床試験を米国で開始し、2021年12月でPhase 2試験が終了する予定です。加齢黄斑変性症は世界で1億人をこえる患者さんがおり、高齢化社会と共に患者さんの増加が予測されております。既存薬（VEGF阻害薬）は1兆円を超える大きな市場を形成していますが、その効果は不十分で、失明のリスクを払拭できないUnmet Medical Needs（有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズ）の病気です。当社のRBM-007は既存薬にはない「新しい薬理作用」によって、加齢黄斑変性症の根本的な治療に貢献するものと期待しております。

また、希少疾患である軟骨無形成症に対する臨床試験も並行して進めており、アプタマーの特性を生かした自社製品の開発を加速することによって、当社はDiscoveryからClinical Stageの会社へと発展することを目指しています。

2014年9月に東証マザーズに上場して以来、多くの方にご支援を賜り、当社の「夢」を共有して頂いてきたことに対して深くお礼を申し上げます。私どもはその「夢」の実現に向け、なお一層努力してまいります。



代表取締役社長
中村 義一

目 次

- CEO ご挨拶
- 会社概要
- 事業概要
- 中期展望
- リスク情報

会社概要と社名の由来

会社概要

商号	株式会社リボミック
本社所在地	東京都港区白金台3-16-13
設立	2003年8月1日
代表者	代表取締役社長 中村義一
資本金	6,542百万円 (2021年3月末)
事業内容	核酸アプタマーを用いた分子標的薬の開発
役員・従業員数	取締役 5名 / 監査役 3名、従業員 25名 (2021年3月末)
子会社	RIBOMIC USA Inc. (米国)

社名の由来



自社の開発に重要な RIBONUCLEIC ACID (リボ核酸) と MIMIC (擬態) の造語です。ここでのMIMICとは、分子擬態*を示しております。

*分子擬態とは、上記の図のようにリボ核酸等がタンパク質と同様の形をつくり、タンパク質のように生体内で機能することです。

事業モデル

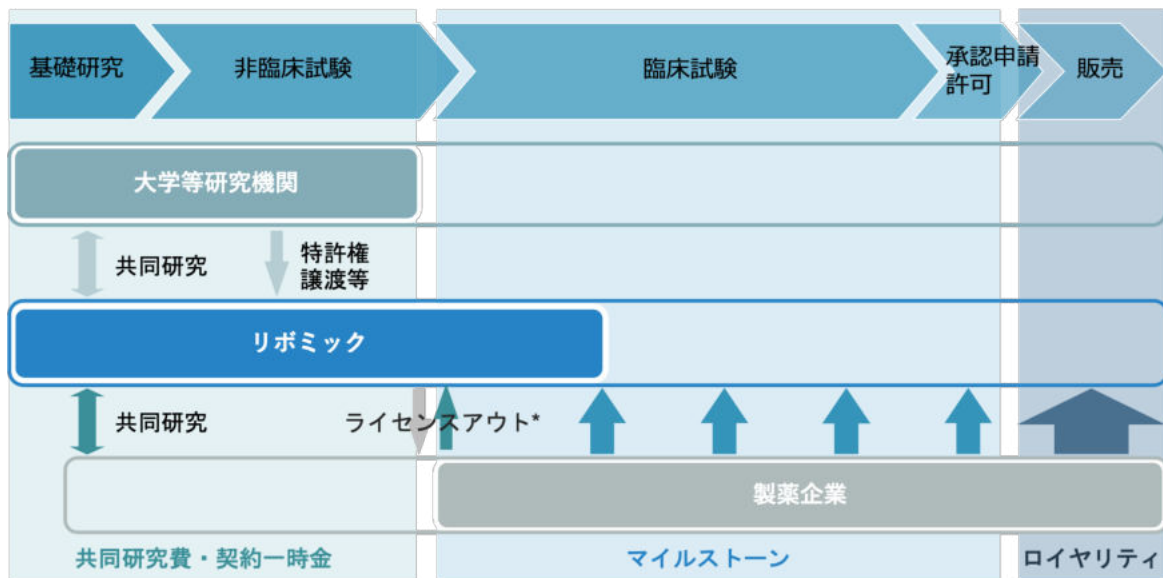
● 自社開発又は大学等研究機関との共同研究開発

自社又は大学等研究機関との共同研究で医薬候補となるアプタマーを開発し、その成果を製薬企業にライセンスアウトし、ライセンス対価を得る事業です。

今後、自社にて臨床試験を行い、その後ライセンスアウトすることを中心に進めてまいります。

● 製薬企業との共同研究開発

製薬企業とのアプタマー医薬品の共同研究開発を実施し、製薬企業から支払われる研究費や、開発の進捗によるライセンス対価を得る事業です。



*ライセンスアウトの時期は、疾患や開発状況によって前後します。

アライアンスパートナー

株主・資本提携



Otsuka

全薬工業株式会社
ZENYAKU



Fujimoto

AJU PHARM



ライセンス

TAISHO PHARMACEUTICAL HOLDINGS

Vitamin C60 BioResearch Corporation

ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.



RIBOMIC

共同研究



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



Faculty of Science and
Engineering,
Waseda University



The Institute of Medical Science
The University of Tokyo

MUNI

Masaryk
University



National Cerebral and
Cardiovascular Center



順天堂大学
医学部・医学研究科
JUNTENDO



Osaka Medical College



Graduate School of Medicine
Faculty of Medicine, Osaka University

共同研究・成果契約

RIBOMIC

主なアライアンスに関して

- **韓国AJU薬品株式会社とライセンス契約締結**

2020年3月、RBM-007の独占的实施権(滲出型加齢黄斑変性症に対する韓国および東南アジア地域)の供与に関するライセンス契約を韓国AJU薬品と締結しました。本契約により、当社は契約一時金として1百万USドルを受領済み、今後は開発マイルストーンとして最大5百万USドルを受け取る権利を有し、ロイヤリティを含めた価格でRBM-007製品を供給します。

現在、両社でRBM-007の活用に向けた検討を継続しております。

- **あすか製薬株式会社と共同研究開発契約締結**

2021年2月、産婦人科領域で重要な役割を担う特定のホルモン受容体に作用するアプタマー医薬品の創製に関する複数年間の共同研究開発契約を締結し、研究を開始しました。本契約締結に伴い、当社はステップ毎の研究費及びマイルストーン達成による一時金を受領しますが、詳細につきましては契約上非開示とさせていただきます。

- **ビタミンC60バイオリサーチ株式会社の共同研究成果**

2019年1月、ビタミンC60バイオリサーチ株式会社と化粧品原料候補の創製・開発に関する共同研究開発契約を締結しましたが、化粧品原料候補の有望なアプタマーの創製に成功しました。

業績ハイライト

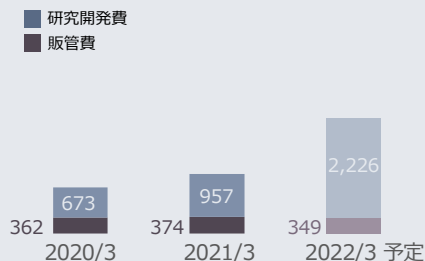
事業収益

単位：百万円



事業費用

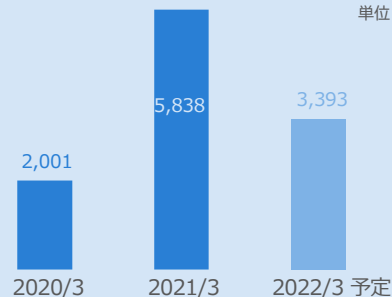
単位：百万円



流動性の状況

(現預金+有価証券の期末残高合計額)

単位：百万円



2021/3

RBM-011の肺動脈性肺高血圧症について国立循環器病研究センター（以下、「国循」と略）との共同研究による受託収入等

2022/3

前年度同様国循との受託収入に加え、産婦人科領域でするか製薬(株)との共同研究収入を主要因

コロナ禍の影響でRBM-007の滲出型加齢黄斑変性症、及び軟骨無形性症の臨床試験が遅れ計画比27%減

引続きRBM-007の臨床開発費に加え、その他パイプラインの臨床段階へのステージアップ費用

第15回新株予約権の行使4,988百万円が主要因で増加

左記2022/3の研究開発費(2,226百万円)+販管費(349百万円)を勘案後も2022/3末に3,393百万円の残高確保

目 次

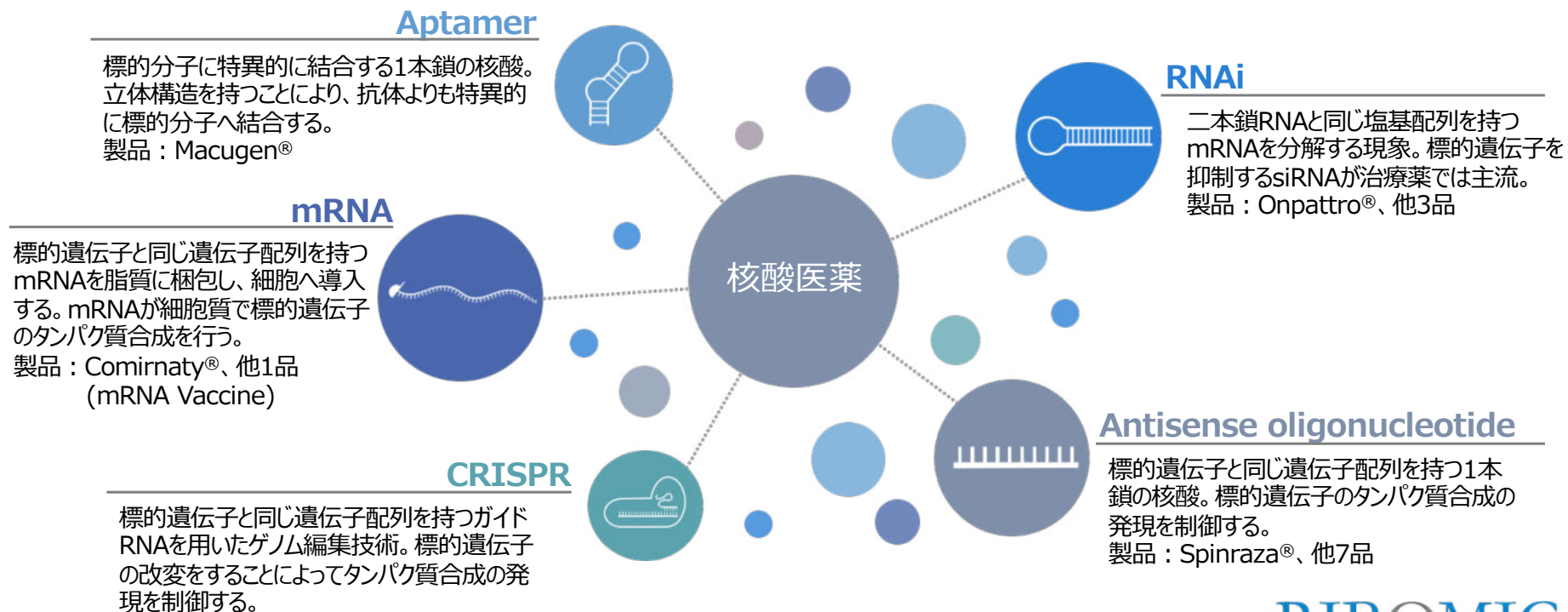
- CEO ご挨拶
- 会社概要
- 事業概要
- 中期展望
- リスク情報



アプタマー創薬

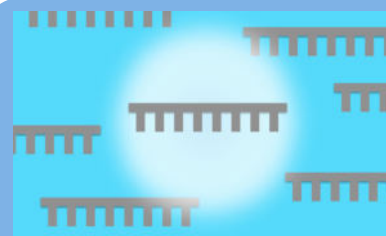
事業環境、技術の特徴、パイプライン

飛躍する核酸医薬：アプタマーもそのひとつ



アプタマーとは：核酸の造形力を利用した結合性分子

What's RNA Aptamer?



RNAは4種類の塩基 A・U・G・C から成り立っており、アプタマーは1本鎖のRNAで構成されている

1本鎖のRNAは溶液中や生体内では不安定なため、塩基対同士が対をなし、立体構造を組んでいる



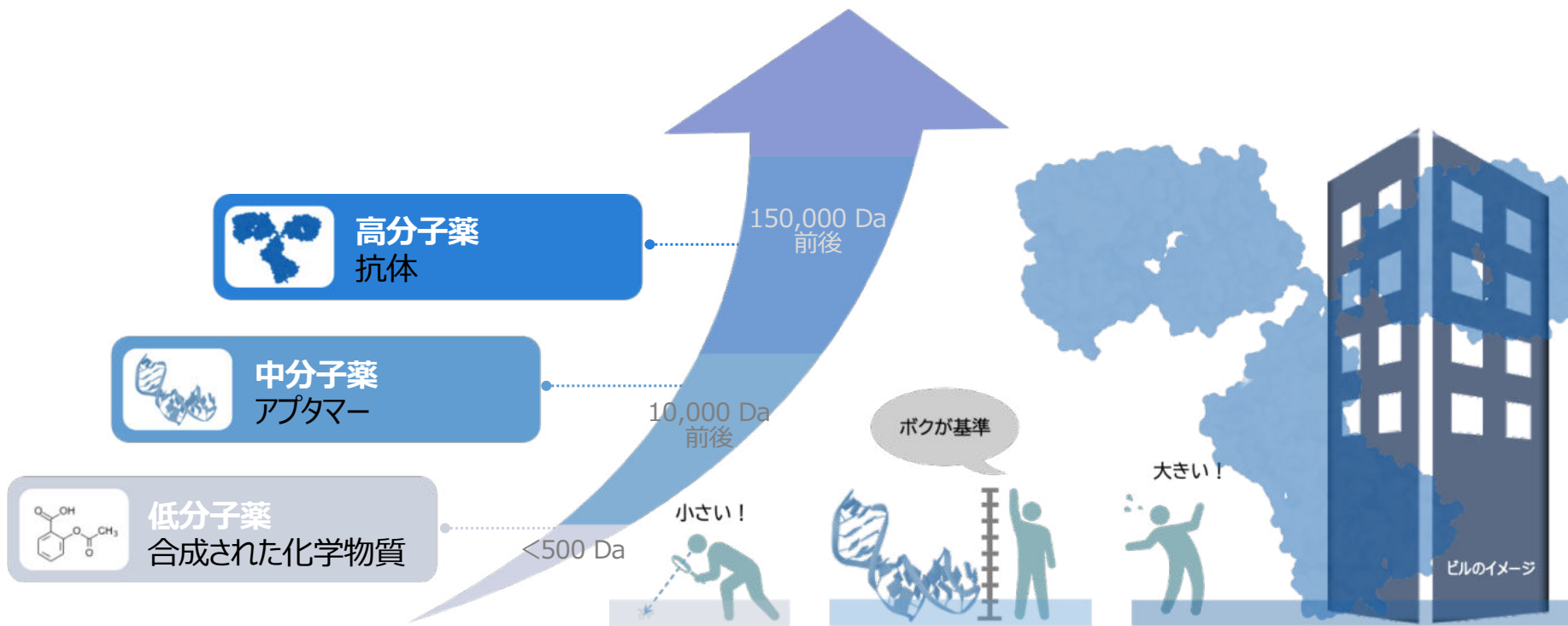
立体構造を組んだアプタマーは標的分子に特異的に結合する

アプタマーと他の医薬品との比較

	 低分子医薬品 低分子薬	 アプタマー 中分子薬	 抗体医薬品 高分子薬
大きさ（分子量）	小さい（500以下）	中くらい（10,000前後）	大きい（100,000以上）
活性・結合力	中～高	極めて高い	極めて高い
選択性・特異性	低い	極めて高い	極めて高い
標的の認識領域	狭い	広い	中くらい
生体内安定性	低～中	中～高	極めて高い
製造方法（コスト）	化学合成（低）	化学合成（中～高）	細胞や微生物を用いて合成（高）

アプタマーは、ターゲットとなる分子へ特異的に結合して、その働きを阻害したり、促進する事により、病気の治療を行う医薬品（分子標的薬）です。大きさ（分子量）から中分子薬に分類されます。病気のターゲットに対して、それぞれの特徴を活かした医薬品の開発が重要です。

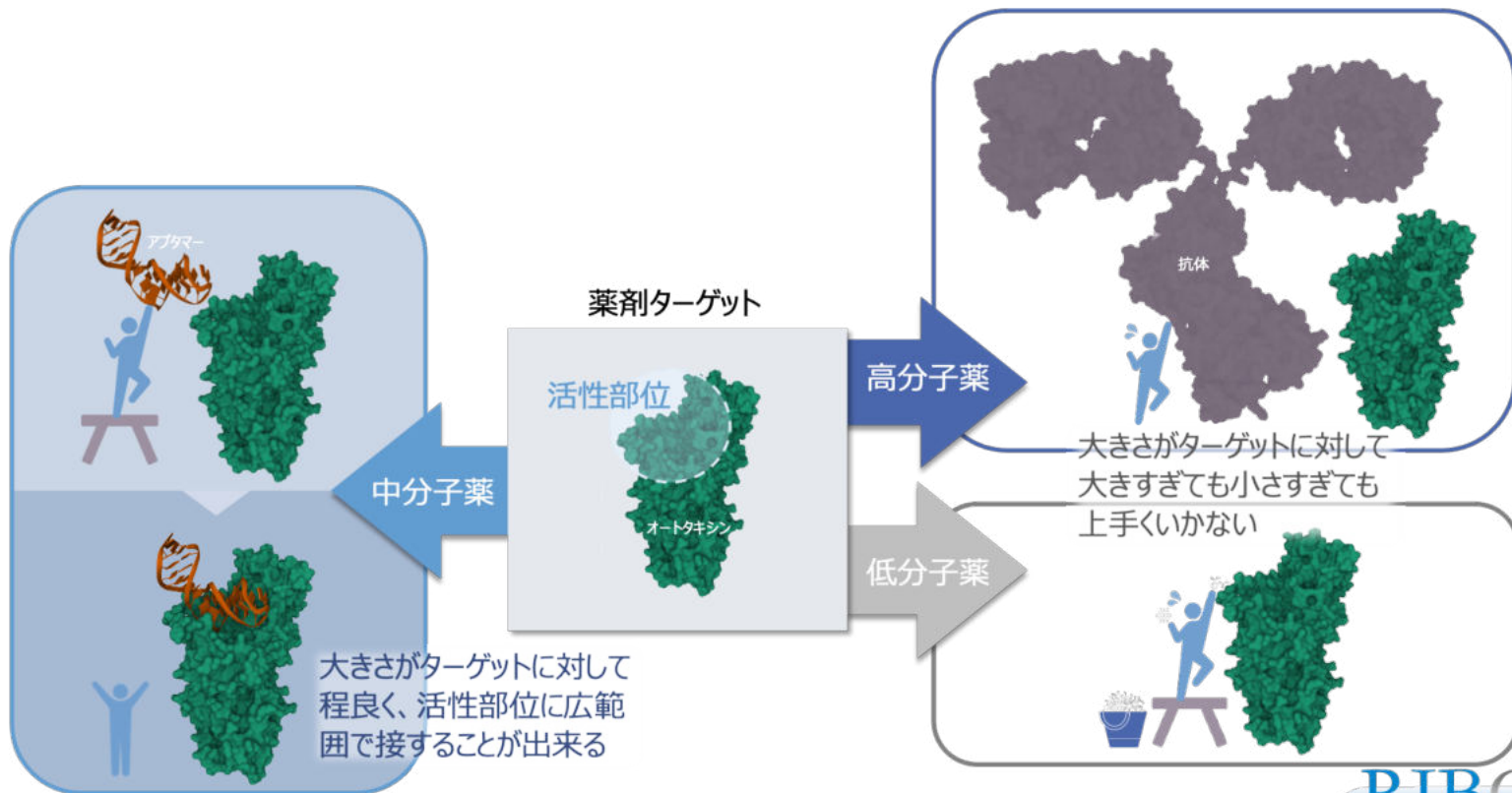
アプタマーと他の薬の大きさの違い



分子の大きさイメージ

中分子薬の利点：

オートタキシン（線維症創薬ターゲット）に対するアプタマーの事例



その他、アプタマーの主な特徴



選択性・特異性が極めて高い



活性・結合力が極めて高い

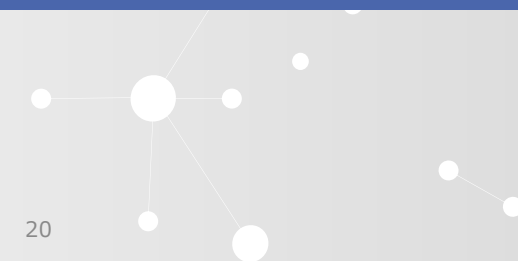
パイプライン：優先度の高い自社開発品

化合物コード	ターゲット	疾患	探索	前臨床	臨床			
					1	2a	2b	3
RBM-007	FGF2	滲出型加齢黄斑変性症(wet AMD)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
RBM-007	FGF2	軟骨無形成症 (ACH)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
RBM-011	IL-21	肺高血圧症 (PAH)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				
RBM-003	Chymase	急性心不全	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				
RBM-010	ADAMTS5	変形性関節症	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				
(未指定)	SARS-CoV-2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	<input checked="" type="checkbox"/>					



RBM-007

wet AMDを対象とした臨床試験



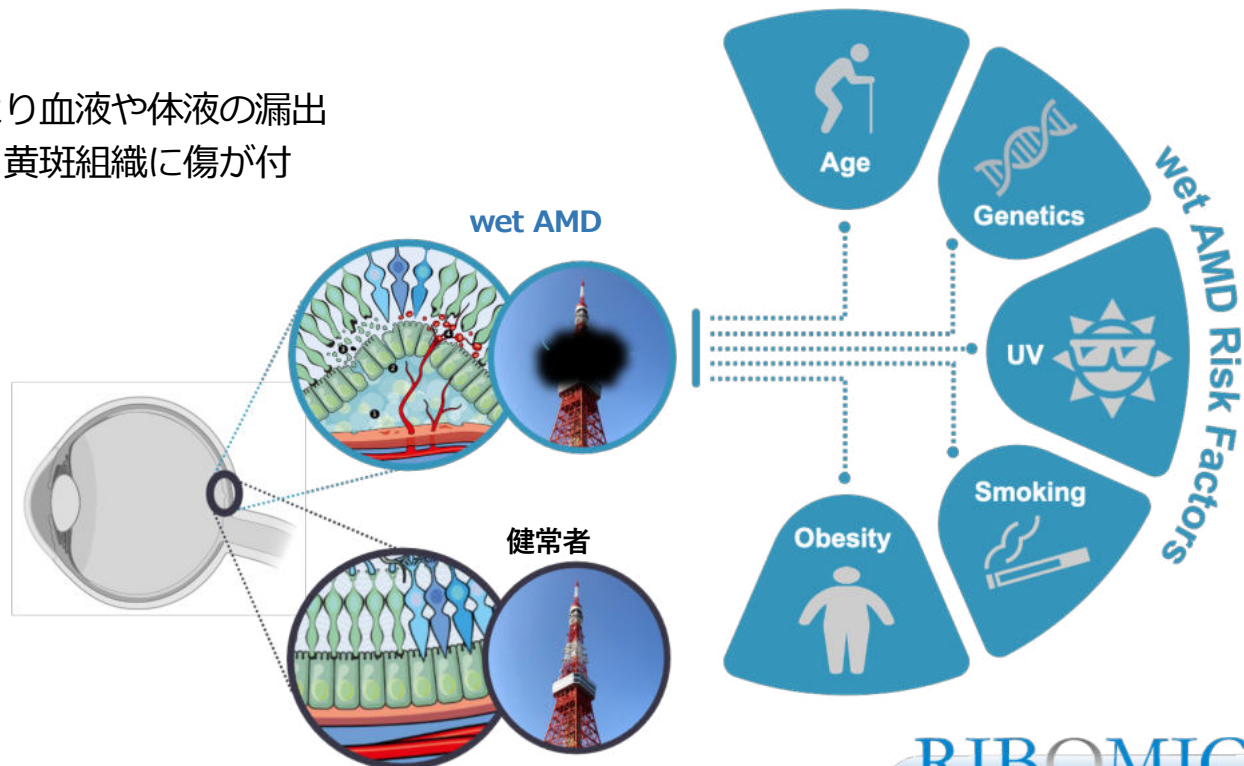
滲出型加齢黄斑変性症 (wet AMD)

● 滲出型加齢黄斑変性症とは

網膜の下に生じた新生血管により血液や体液の漏出を引き起こします。これにより黄斑組織に傷が付き、視力障害となります。

● 滲出型加齢黄斑変性症の症状

物が歪んで見えたり、視野の中心部が暗く欠けて見えたりします。さらに網膜での瘢痕形成が進むと失明の原因になります。



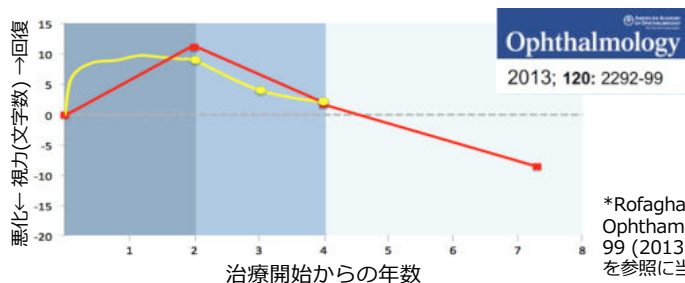
FGF2を標的とする理由：wet AMD発症の要因

既存の治療法

血管新生を阻害するVEGF阻害剤の硝子体内注射：
Lucentis[®], Eylea[®], Avastin[®] etc.

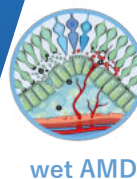
問題点

患者の1/3は薬が奏効せず、効いた患者も、
2年経過後薬効が低下し、視力が再悪化する
(追跡調査結果)



NEXT

wet AMD
Treatment

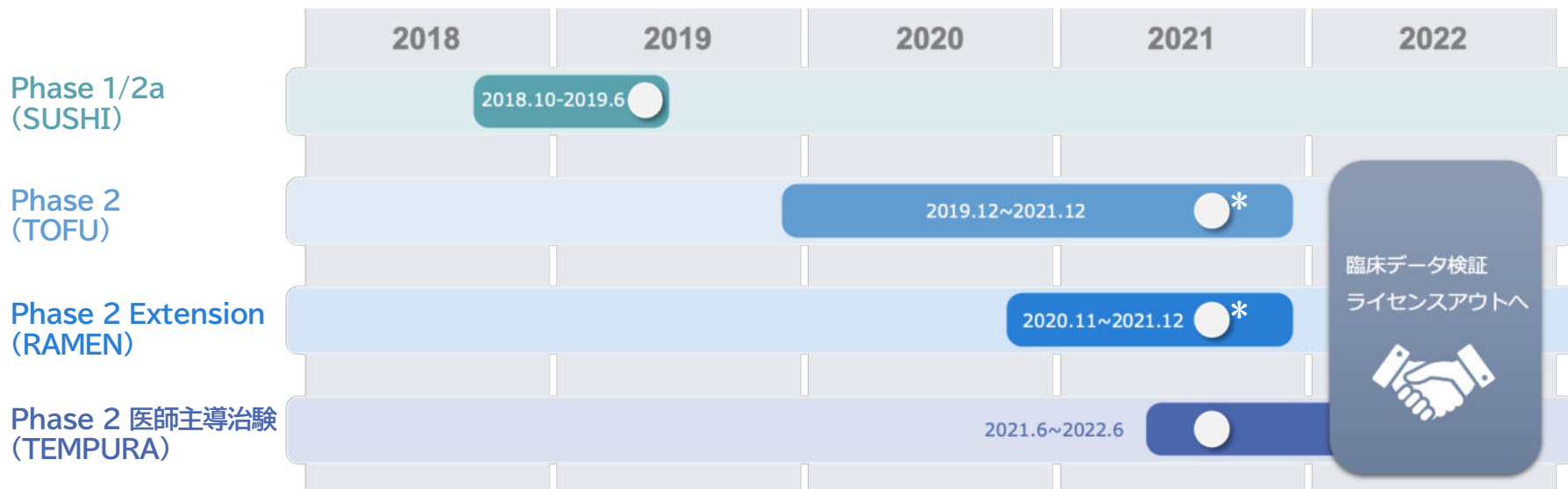


RBM-007(FGF2阻害アプタマー)

FGF2はVEGFより強力な血管新生作用をもち、
網膜の線維化（瘢痕化）を誘導する



米国におけるwet AMD臨床試験



* TOFU、RAMENの両試験に関しては、患者組み入れ完了済み

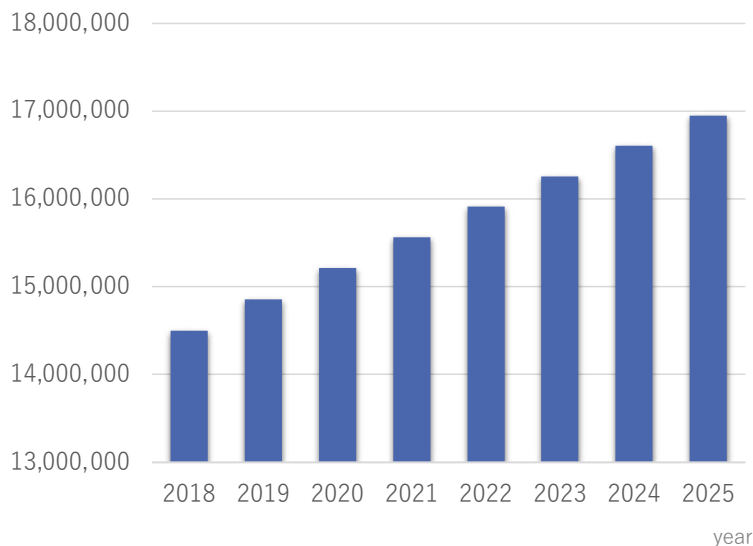
Phase 2試験の概要

Phase 2試験として、RBM-007の薬効を総合的に評価する目的で下記の3試験を実施している。
3試験は実施方法と評価項目が異なる。

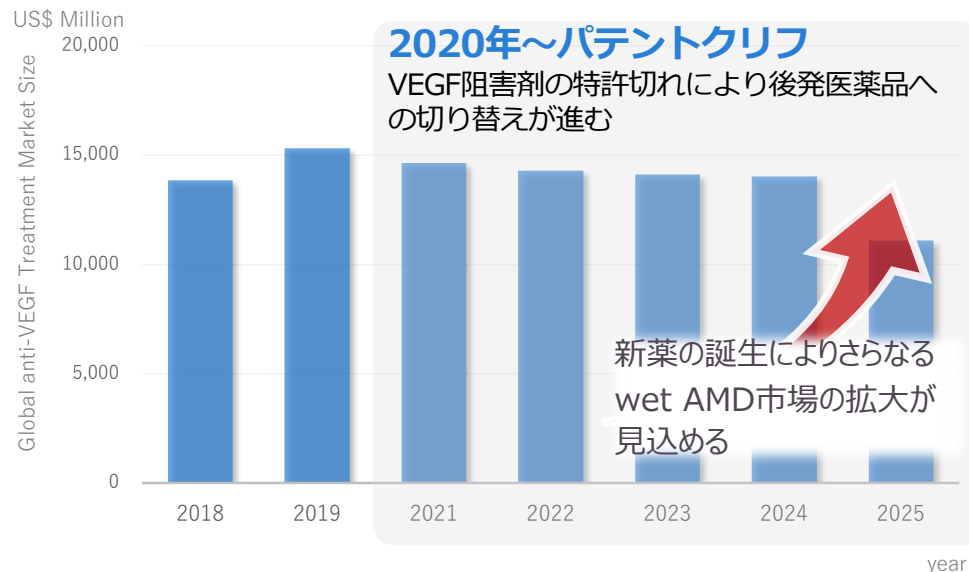
Phase 2 Study	被験者	投与デザイン（硝子体内）	評価項目
TOFU	VEGF阻害剤が奏功しない wet AMD患者	Arm 1: RBM-007単剤投与 Arm 2: RBM-007+Eylea®併用投与 Arm 3: Eylea®単剤投与 RBM-007（月1回、計4回） / Eylea®（隔月1回、計2回）	視力回復
RAMEN Extension試験	TOFU試験完了者	RBM-007単剤投与（月1回、計4回）	瘢痕形成抑制 視力回復
TEMPURA 医師主導治験	未治療wet AMD患者	RBM-007単剤投与（月1回、計3回）	視力回復 網膜厚減少

世界におけるwet AMD患者数とVEGF阻害剤の市場

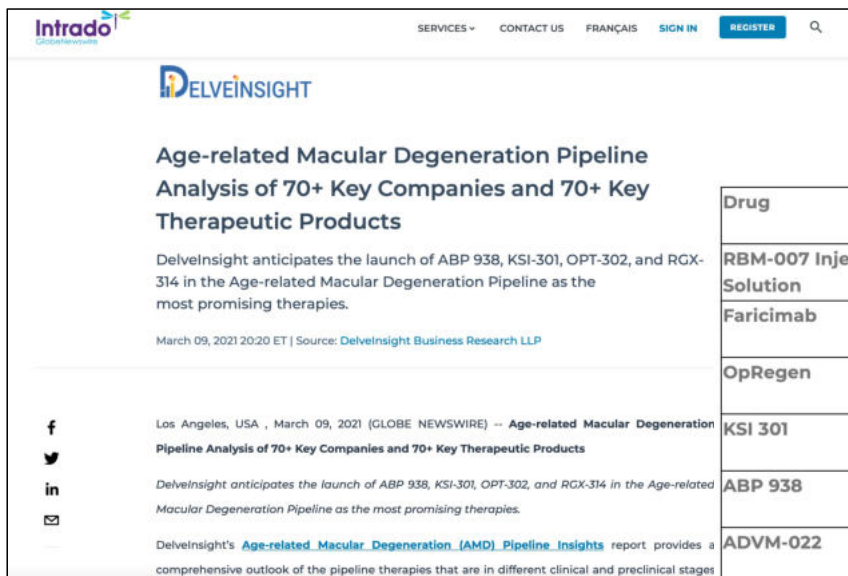
● 世界のwet AMD患者数



● 世界のVEGF阻害剤の市場



米国で注目されている主な開発競合品



臨床試験が進んでいる開発競合品はVEGF阻害剤関連がほとんどで、当社のような新規ターゲットの治療薬は少ない

Drug	Company	Clinical Phase	MoA	RoA	Expected Launch
RBM-007 Injectable Solution	Ribomic USA Inc	II	Fibroblast growth factor inhibitors	Intravitreal	NA
Faricimab	Roche	III	Vascular endothelial growth factor A inhibitors	Intravitreal	NA
OpRegen	Lineage Cell Therapeutics	I/II	Cell replacement factors	Intravitreal	NA
KSI 301	Kodiak Sciences	II/III	Vascular endothelial growth factor inhibitors	Intravitreal	6件
ABP 938	Amgen	III	Vascular endothelial growth factor A inhibitors	Intravitreal	1件
ADVM-022	Adverum Biotechnologies	I	Vascular endothelial growth factor inhibitors	Intravitreal	1件
SCT510A	Sinocelltech	Preclinical	Vascular endothelial growth factor A inhibitors	Intravitreal	NA
GB-102	Graybug Vision	II	Vascular endothelial growth factor receptor-1 antagonists	Intravitreal	NA

Key Pipeline 表の内訳

VEGF阻害剤 6件

再生医療 1件

FGF2阻害剤 (RBM-007) 1件

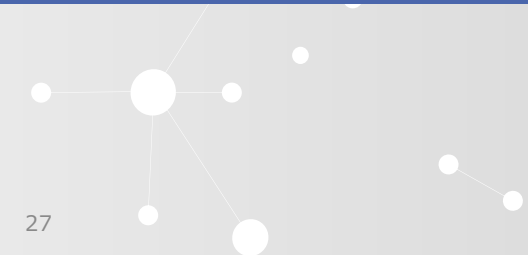
* 米国調査会社 DelveInsight Business Research LLP (<https://www.globenewswire.com/news-release/2021/03/10/2190007/0/en/Age-related-Macular-Degeneration-Pipeline-Analysis-of-70-Key-Companies-and-70-Key-Therapeutic-Products.html>)





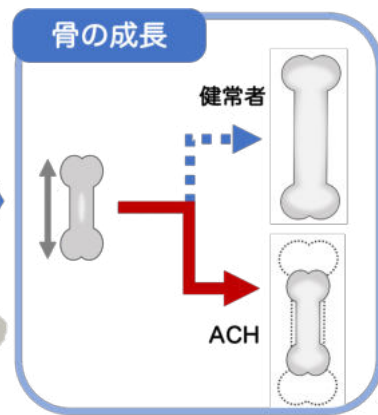
RBM-007

ACHを対象とした臨床試験



軟骨無形成症（ACH, Achondroplasia）

- **軟骨無形成症（ACH）とは**
手や足の短縮を伴う低身長となる希少疾患です。
有効な治療薬が存在しません。
- **軟骨無形成症（ACH）の原因**
FGFタンパク質に対する受容体FGFR3におきた突然変異です。
変異したFGFR3によって、骨の成長に必要な軟骨組織（成長板）の形成に過剰なブレーキがかかり、骨の成長が妨げられます。
- **軟骨無形成症（ACH）の患者数*1**
日本：約6,000人
米国：20,000～30,000人
世界：約25万人



*2 Horton et al. Lancet 2007; 370: 162-72

*1 難病情報センターHPの軟骨無形成症（指定難病276）と軟骨無形成症治療ガイドライン等を用い、当社にて作成。

研究成果 : Science Translational Medicine 掲載

SCIENCE TRANSLATIONAL MEDICINE | RESEARCH ARTICLE

BONE

An RNA aptamer restores defective bone growth in FGFR3-related skeletal dysplasia in mice

Takeshi Kimura^{1†}, Michaela Bosakova^{2,3,4†}, Yosuke Nonaka^{5†}, Eva Hrubá⁴, Kie Yasuda¹, Satoshi Futakawa⁵, Takuo Kubota¹, Bohumil Fafílek^{2,3,4}, Tomas Gregor^{2,3}, Sara P. Abraham², Regina Gomolkova^{2,4}, Silvie Belaskova³, Martin Pesl^{2,3,6}, Fabiana Csukas^{7,8}, Ivan Duran^{7,8}, Masatoshi Fujiwara⁵, Michaela Kavkova⁵, Tomas Zikmund⁹, Josef Kaiser⁹, Marcela Buchtova^{4,10}, Deborah Krakow⁷, Yoshikazu Nakamura^{5,11*}, Keiichi Ozono^{1*}, Pavel Krejci^{2,3,4*}

Achondroplasia is the most prevalent genetic form of dwarfism in humans and is caused by activating mutations in FGFR3 tyrosine kinase. The clinical need for a safe and effective inhibitor of FGFR3 is unmet, leaving achondroplasia currently incurable. Here, we evaluated RBM-007, an RNA aptamer previously developed to neutralize the FGFR3 ligand FGF2, for its activity against FGFR3. In cultured rat chondrocytes or mouse embryonal tibia organ culture, RBM-007 rescued the proliferation arrest, degradation of cartilaginous extracellular matrix, premature senescence, and impaired hypertrophic differentiation induced by FGFR3 signaling. In cartilage xenografts derived from induced pluripotent stem cells from individuals with achondroplasia, RBM-007 rescued impaired chondrocyte differentiation and maturation. When delivered by subcutaneous injection, RBM-007 restored defective skeletal growth in a mouse model of achondroplasia. We thus demonstrate a ligand-trap concept of targeting the cartilage FGFR3 and delineate a potential therapeutic approach for achondroplasia and other FGFR3-related skeletal dysplasias.

INTRODUCTION

Achondroplasia (ACH) is the most common dwarfism in humans, occurring in between 1:15,000 and 1:40,000 live births (1). ACH is caused by mutations in the *FGFR3* gene, which encodes a transmembrane receptor tyrosine kinase. Fibroblast growth factor receptor 3 (FGFR3) transduces the communication signals delivered by fibroblast growth factors (FGFs) (2). In addition to ACH, activating

cytokine/signal transducer and activator of transcription (STAT) signaling, and bone morphogenetic protein (BMP) and Hedgehog signaling (5–7). The complex molecular phenotypes induced by FGFR3 affect chondrocyte behavior, inducing proliferation arrest, degradation of cartilaginous extracellular matrix, and premature senescence. Collectively, these changes lead to disruption of the growth plate cartilage and defective endochondral ossification (8).

Copyright © 2021
The Authors, some
rights reserved;
exclusive licensee
American Association
for the Advancement
of Science. No claim
to original U.S.
Government Works

Downloaded from <http://stm.sciencemag.org>



論文内容 :

軟骨無形成症モデルマウスとACH患者由来iPS細胞で、当社開発のRBM-007(FGF2アプタマー)を用いたFGF2阻害により骨の成長が促進された

軟骨無形成症に対するRBM-007
の薬理効果・作用機序の解明
治療薬開発の科学的な裏付け

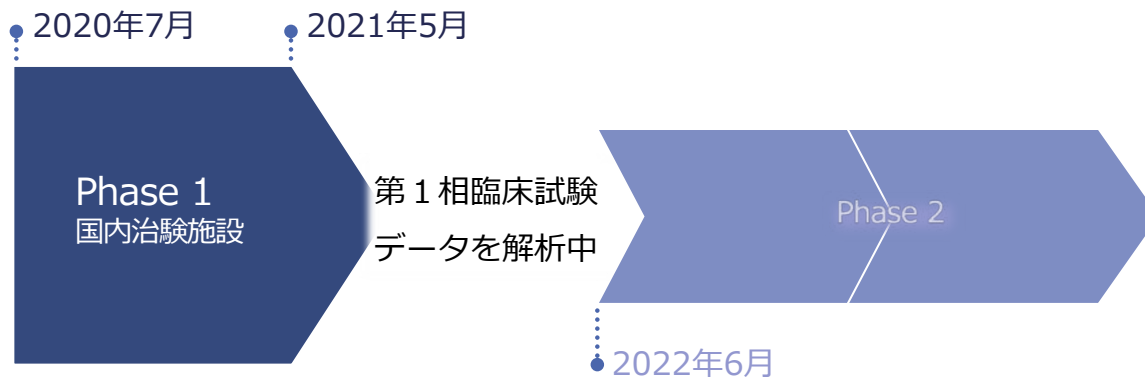
**Sci Transl Med.* 2021 May 5;13(592):eaba4226. doi: 10.1126/scitranslmed.aba4226.

RIBOMIC

国内におけるACH 開発スケジュール



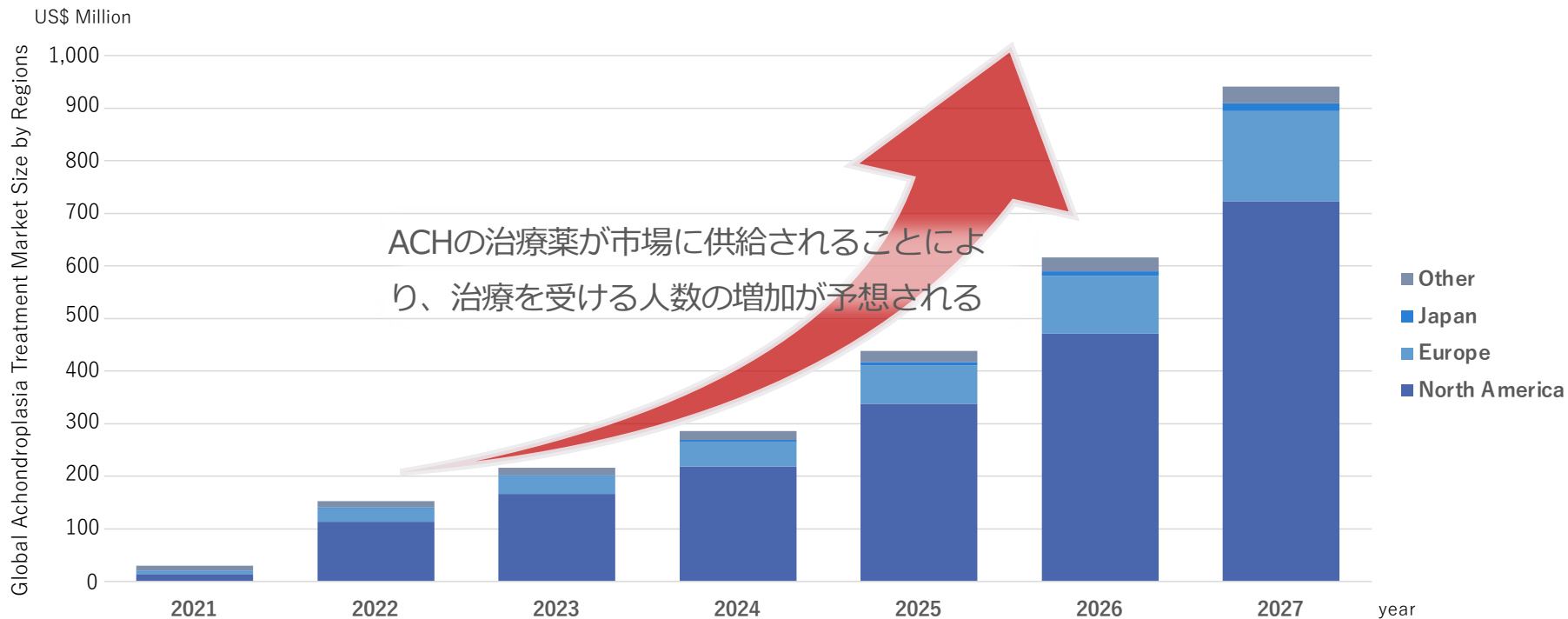
Phase 1試験の概要



治験計画




被験者組込み基準	健康な成人男性
試験デザイン	単回あるいは2回の皮下注射 3用量群の順次漸増
試験項目	・安全性と忍容性の評価 ・薬物動態の検討

世界におけるACH治療薬の市場



*Source: Secondary Sources, Expert Interviews and QYResearch, 2021

主な開発競合品

プロフィール	RBM-007	Vosoritide	TA-46 (Recifercept)
開発企業	RIBOMIC (Tokyo) 	BioMarin Pharmaceutical (CA) 	Therachon (Basel)* 
医薬品	抗FGF2 アプタマー	C型ナトリウム利尿ペプチド (CNP)アナログ	FGFR3細胞外領域とFcの融合タンパク質 (sFGFR3)
分子量	52 KDa	4.1 KDa	100~150 KDa
作用機序	FGF2 阻害	MAPK シグナル阻害	FGF トラップ
開発ステージ	Phase I (2021年)	FDA及びEMAで審査中(2021年)	Phase II(2021年)
投与方法	月 1 回皮下注射	毎日皮下注射	週 1 回皮下注射

*Therachon社はPfizer社によって、3億4千万米ドルで買収。別途、成功報酬4億7千万米ドル。(2019年5月)



その他、主要なパイプライン

その他、主要なパイプライン



RBM-011
肺高血圧症(PAH)

疾患とターゲット

心臓から肺へ血液を送る血管（肺動脈）の血圧が高くなる難病です。その原因としては、肺の血管壁が厚くなるのが分かっており、IL-21の関与が示唆されています。

開発状況

- アプタマーの創製
- 細胞試験
- 動物試験
- 毒性試験



RBM-003
急性心不全

疾患とターゲット

突然、心臓の働きや機能に異常が生じ、血液を送るポンプの役割が出来なくなり、呼吸困難等により倒れ、緊急入院となります。急性心不全の際、心臓等各種臓器からキマーゼが活性化され炎症を引き起こします。

開発状況

- アプタマーの創製
- 細胞試験
- 動物試験
- 毒性試験



RBM-010
変形性関節症

疾患とターゲット

関節の軟骨が加齢や怪我等ですり減ることにより、痛みが生じる病気です。この軟骨成分の分解を促進しているADAMTS5を抑制することにより、症状の進行を遅らせることが期待されます。

開発状況

- アプタマーの創製
- 細胞試験
- 動物試験
- 毒性試験



(未指定)
SARS-CoV-2

疾患とターゲット

新種コロナウイルスによる感染症です。現在、世界中で猛威を振るっており、予防薬としてワクチンが開発されましたが、感染した場合の治療薬がありません。ウイルスのSタンパク質の阻害剤を開発中です。

開発状況

- アプタマーの創製
- 細胞試験
- 動物試験
- 毒性試験

目 次

- CEO ご挨拶
- 会社概要
- 事業概要
- 中期展望
- リスク情報

中期事業目標

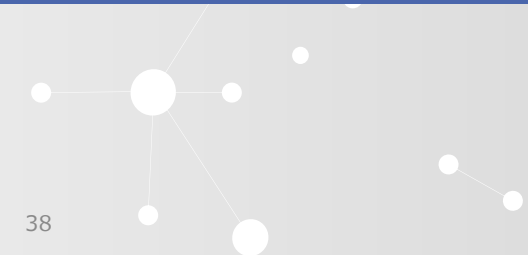
1 Discovery(探索)からClinical(臨床)ステージへの脱皮

2 次世代アプタマー・テクノロジーの開発

3 社会に対する企業価値の創出



VISION 2025



VISION 2025: 5つの臨床試験プログラム目標



RBM-007

滲出型加齢黄斑変性
(wet AMD)

2021 Phase 2 試験の完了とPOC取得
2022 大手企業との提携とPhase 3 試験の開始



RBM-007

軟骨無形成症
(ACH)

2021 Phase 1 試験の完了
2022 Phase 2a 試験の開始



RBM-011

肺高血圧症
(PAH)



RBM-003

急性心不全



RBM-010

変形性関節症

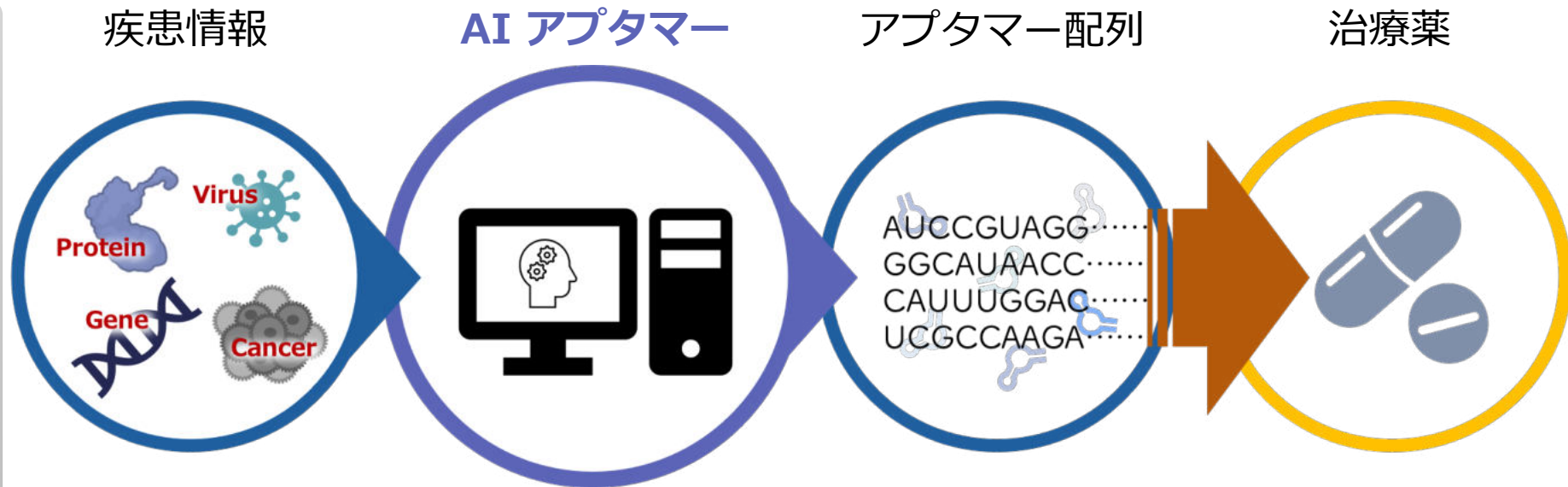
2021~22
2023~

非臨床試験の完了
Phase 1 試験の開始



次世代アプタマー・テクノロジーの開発

AI アプタマーのコンセプト



AIアプタマーとは、人工知能（AI）を活用し、効率良くアプタマーのリード配列を取得すること

JST・CREST：AIアプタマー創薬プロジェクトにて、早稲田大学理工学院浜田研究室を中心に共同研究



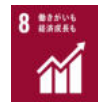
社会に対する企業価値の創出

サステナビリティの取り組み

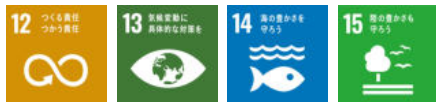
- **リサイクル活動**
アイシティecoプロジェクト参加
→ 空コンタクトケース回収 約2,100個/年
- **社内ペーパーレス化**
web会議導入やノートパソコン導入で会議資料のペーパーレス化
→ コピー用紙の使用率 昨年比 約37%減
- **研究資源の管理**
 - ・ 在庫管理システムによる研究材料のムダの削減
 - ・ 各種法令に基づいた研究材料の管理(組換え生物、試薬等)
- **廃棄物の徹底した分別管理**
すべての実験廃液を分別管理して無害化処理を実施
- **従業員の安全確保**
研究室内の作業環境測定、研究従事者の特殊健康診断の実施



- BCP対応/ニューノーマルの推進
新型コロナウイルス対応の為、在宅勤務や時差出勤の導入
- **事業戦略**
CMC開発部の創設
- **経営ガバナンス強化**
社外取締役の増員



- アプタマーで治療法のない薬をつくる
希少疾患(ACH)や難病(PAH)、新型コロナウイルス等
- 次世代の研究者への貢献
BIOMOD Team Tokyoへの支援



目次

- CEO ご挨拶
- 会社概要
- 事業概要
- 中期展望
- リスク情報

リスク情報 1

開発事業全般に関する事項

顕在化の可能性/時期	中/短中期	顕在化した場合の影響	大
リスク	<u>治験の実施に良い評価が得られない場合</u> 特に、RBM-007(wet AMD)のPhase 2(TOFU)試験の有効性及び安全性等に良い結果が得られなかった場合や、RBM-007(ACH)の前期第2相試験の終了後にオーファンドラッグの指定が受けられず、NDA申請が条件付き早期承認を得られなかった場合、計画の遅れや大幅な変更、開発の中止の可能性がある。		
予防策/対応策	<ul style="list-style-type: none">薬事に精通する専門家、規制当局との事前相談を通じた情報収集に基づき、臨床に当たる責任医師との緊密な連携を図る。Padma Bezwada博士 (RIBOMIC USA Inc CEO)の採用とその陣頭指揮を始めとする米国子会社内臨床開発体制の強化 (wet AMD)日本においても製薬大手で長年国内外の臨床試験実績のある臨床開発部長を採用し、研究開発本部長として統括(ACH)大手製薬企業へライセンスアウトし、グローバル治験を行い通常の承認を目指す(ACH)後続品の開発推進		

会社組織に関する事項

顕在化の可能性/時期	中/不明	顕在化した場合の影響	大
リスク	<u>個人への依存</u> 当社は少数精鋭の組織であるため、事業全般の推進を担う中村義一代表取締役社長の経営執行が困難になった場合や優秀な研究開発人材が退職した場合には、経営成績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性がある。		
対応策	<ul style="list-style-type: none">サステナブルな会社経営のために、人材の採用並びに後継者育成役員構成にも配慮		

リスク情報 2

株主に関する事項

顕在化の可能性/時期	低/中長期	顕在化した場合の影響	大
リスク	<u>敵対的買収による影響</u> 株価水準によっては、第三者の株式取得を通じた敵対的買収が行われ、経営的なリスクが生じる可能性がある。		
対応策	<ul style="list-style-type: none">既存大株主との友好関係の維持機関投資家など、新たな安定株主の確保		

知的財産権に関する事項

顕在化の可能性/時期	低/中長期	顕在化した場合の影響	大
リスク	<u>特許出願が成立しない等の影響</u> ライセンスアウトが出来ない、または低額な対価しか得られず、事業戦略や経営成績に影響を及ぼす恐れがある。		
対応策	<ul style="list-style-type: none">特許事務所や専門家による検討、調査を実施した上で最適な特許出願を実施社内に知財部門を新設し、専門家を採用予定		

リスク情報 3

経営成績に関する事項

顕在化の可能性/時期	中/中長期	顕在化した場合の影響	大
リスク	<u>安定的な収益に至るまでの期間の資金不足</u> 創業ベンチャー企業の特徴として当初から多額の資金が必要になる一方で、安定的な収益の計上に至るまで期間を要するため、必要なタイミングで資金を確保できなかった場合、事業に影響を及ぼす可能性がある。		
対応策	<ul style="list-style-type: none">• 後続パイプラインのライセンスアウト• 新規安定株主確保• 新規助成金の獲得、新株発行等による資金調達の実施		

- 上記以外のリスク情報につきましては、直近の有価証券報告書「第2 事業の状況、2 事業等のリスク」をご参照ください。

留意事項

当該資料は当社の事業内容を説明するために作成されたものであり、勧誘を目的に作成されたものではありません。当該資料に記載された内容については合理的な注意を払うよう努めておりますが、当該資料の作成時において入手し得た情報に基づき、当社の判断において記載したものです。市場環境等当社外の事項に関する情報については、その正確性、完全性について保証するものではなく、また、業績の見通し等の将来に関する記述については、リスクや不確実な要素が含まれているため、実際の業績は大きく異なるものとなる可能性があり、これについて確約や保証を与えるものではありません。

投資等を行われる際には、投資家ご自身の責任と判断で行っていただくことを前提に当該資料をご提示させていただいております。

なお当該資料に記載されている開発品の情報は、当該製品を宣伝・広告するものではありません。

また、新型コロナウイルス感染拡大による研究推進に、大きな影響が出ないよう当社としては引き続き努力して参ります。

- 次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」の開示は、2022年6月の株主総会後を予定しております。



URL : <https://www.ribomic.com>

Contact information : info@ribomic.com